

雑草を根から枯らし、  
長い間雑草の発生を抑えます！

秋～春の  
除草剤！

# カペレン<sup>®</sup> 粒剤2.5

## 特長

- 雑草の発生前～始期に使用すると、スギナ・ギシギシ・ヨモギ・ツユクサ・ヤブガラシなど一年生雑草の発生を抑制します。
- 粒剤タイプのため、水に希釈することなく楽に散布ができます。
- 日本芝に使用でき、また公園・墓地・道路・宅地・工場敷地などに使用できます。
- 人畜・魚介類・鳥類・有用昆虫などに影響が少ないです。

## ■使用例

### 作物等を植えない場所での使用例

薬量 30g/m<sup>2</sup>



薬量 10g/m<sup>2</sup>



(スズメノカタビラ対象)

### 日本芝での使用例

薬量 10g/m<sup>2</sup>  
(処理 1 週間後)



(スギナ対象)

薬量 15g/m<sup>2</sup> ゴルフ場ラフ  
(処理 1 ヶ月後)



(カヤツリグサ科対象)



新ラベルデザイン

## ■カペレン粒剤の効果持続期間・散布適期

- カペレン粒剤は土壌処理型除草剤。雑草が生える前・発生初期に効果を発揮する薬剤です。秋冬期及び雑草が発芽しはじめる早春の時期が使用の最適期です。



※12月～2月の散布はもっとも安定した効果があります。  
※天候及び土壌条件などにより多少効果持続期間が異なります。



アグロ カネショウ株式会社

<http://www.agrokanesho.co.jp/>

## ■上手な使い方

- 秋冬期及び雑草が発芽しはじめる早春の時期が使用の最適期です。
- 積雪地帯では10月から根雪までに使用するのが効果的です。
- 気温が低く、雨・雪などにより土が湿っている時に使うのが上手な使い方です。
- スズメノカタビラ・タンポポや一年生雑草には冬、スギナなど多年生雑草には梅雨前までの散布が効果的です。

散布量のめやす：カメラに使う35mmフィルムの容器（直径3cm、高さ5cmぐらい）一杯で約20gです。  
効く雑草：アカザ・ツクサ・ギシギシ・ハコベ・スベリヒユ・タンポポ・スズメノカタビラ・スギナ・チドメグサ・スズメノテッポウ・ヤブガラシ・エノコログサ・ヨモギ・オオバコなどの一年生雑草（タネでふえる草）や、多年生広葉雑草

効きにくい雑草：ススキ・チガヤ・セイタカアワダチソウ及びクローバー・カラスノエンドウなどのマメ科雑草  
株元への使用をさける樹木：マツ類、モミ類、モクセイ類、ニワウメ、ヒノキ、イチジク、コウヤマキ、アジサイ、サンゴジュ、ブーゲンビリア など

## ■適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	DBNを含む農薬の総使用回数
日本芝	—	一年生雑草 多年生広葉雑草	秋期雑草発生前 ～発生始期	壤土～埴土	8～10kg/10a (1m <sup>2</sup> 当り8～10g)	2回 以内	全面土壌 散布	
		ヒメクグ	ヒメクグ 生育初期		10～15kg/10a (1m <sup>2</sup> 当り10～15g)			
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生雑草	雑草発生前 ～発生始期	—	17～20kg/10a (1m <sup>2</sup> 当り17～20g)	3回 以内	植栽地を除く 樹木等の 周辺地に全面 土壌散布	3回 以内
		多年生広葉雑草 スギナ			20～40kg/10a (1m <sup>2</sup> 当り20～40g)			

H27年11月5日現在

### ⚠️効果・薬害等の注意

- ハウス・温室等施設内及びその周辺では使用しないでください。また、ハウス・温室等施設の設定予定場所、そ菜（特にかぼちゃ）の栽培を予定している場所では使用をさけてください。
- 本剤はイネ科雑草に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優占する場所での使用はさけてください。
- 本剤は雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草発生前～発生始期に時期を失ないように散布してください。
- 多年生広葉雑草に対しては所定量を雑草の株元及びその周辺に散布してください。
- ヒメクグ防除に使用する場合は、5～7月のヒメクグ生育初期に散布してください。
- 本剤はまきむらによって効果が不均一になったり薬害の部分的発生が懸念されるので、特に均一散布に留意してください。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので雨上がり等の土壌が湿った状態で使用することが望ましいです。  
また、土壌が乾燥している場合は本剤の使用前または使用後に土壌表面が十分湿る程度に散水すると効果的です。
- 西洋芝には、薬害を生ずるおそれがあるので使用しないでください。
- 高温乾燥時の散布は薬害を生ずるおそれがあるので使用をさけてください。
- 日本芝に使用する場合は、以下のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさけてください。
  - ①芝張り1年以内及び十分に根づいていない日本芝。
  - ②極端な砂質土壌及び排水不良の場所。
  - ③移植後間もない樹木の周辺。
- 本剤は処理後地表面から薬剤が気化し気象条件によって滞留した場合、周辺の有用植物に薬害を生ずるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさけてください。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさけてください。
- 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布してください。

- 公園、堤とう等で使用する場合は、特に以下のことに注意してください。
  - ①農作物の栽培地周辺で使用すると農作物に薬害を生ずるおそれがあるので使用をさける。
  - ②水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意してください。
  - ③散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。

### ⚠️安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともちに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、小児や散布に関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮するとともに居住者、通行人、家畜などに被害を及ぼさないよう注意してください。また、散布後であっても、少なくともその当日は散布区域に立ち入らないように縄囲いや立札を立てるなど配慮してください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

保管…密封し、直射日光をさけ、種子、苗、肥料及び他の農薬などと隔離し、食品と区別して、冷涼・乾燥した所に保管してください。

●使用前にラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●小児の手の届く所には置かない